おやつのじかん３　ーちょっとひとやすみー

ーいい顔してるよー　　NO．26

放課後の子ども達を迎えに行くと、担任の先生から今日の様子を伺います。どんな一日だったか、胸を張るエピソードがあったのか、平穏な一日だったのか、ハプニングがあったのか、とても貴重な情報です。あんずまで送っていただいているお母さんからのお話は、学校でのエピソードに家庭での様子も付け加えてもらえるので、より厚みが増します。これからの数時間、今日一日の続きを一緒に過ごすのですから。一人ひとり、どんな一日だったかを知った上で過ごすことをとても大切にしています。。

子ども達は、嬉しかったこと、自慢したいことは、得意げに伝えてきてくれます。じょう舌に語る子もいれば、「～だったんだってね」の声かけに、ニンマリとする子もいます。報告できる相手がいるって素敵ですね。小中学生ともなると、ネガティブな出来事は言わないんですよ。あんずに来ることで、切り替えているのだと思います。それぞれ PRIDE がありますからね。それも大事な心だと思います。いつもの通りに楽しみ、いつものように帰っていくことで、自分を取り戻しているようです。そんな毎日ですが、特に何もハプニングはなかったようなのに、「今日はどうした？」「何があったの？」と思わせる姿に出会うこともあります。元気がなかったり、イライラしていたり、いやに絡んできたり。そんな時は、いつもよりしっかり向き合い、元気に帰れるように整えてから見送ります。

心が安定しているときや人に優しくできているとき、張り切る姿が見れるときって、いつもそばにいる誰かが、“OK”を出してくれているときだなと思います。逆に、どうにも不安定な時期って、“OK”をもらいにくい悪循環にハマっているときが多いように思います。それは今日一日の出来事だけではなく、しばらく前から続いている空気です。

「いいぞ、いい顔してる！」と、無条件に包んでもらえている子は、何かあっても帰るところがあります。寄りかかれる人がいます。ガソリン補給ができ、何かあっても早めに切り替えることができます。逆に、「それはよくないよ」「次はここを目指せよ」といったメッセージばかり告げられ、今に“OK”を出してもらえないと、落ち着く時間がありません。ガソリンの補給ができません。課題を突き付けられて走るより、今を認められて走るほうが、元気に早く進めますね。常に心がけていきたいことだなと思っています。

でもね…、そう上手くはいきません。関わり方が器用でなく、人に上手く頼れずに、“またやっちゃった”が多くなってしまう子は、“OK”と伝えられる機会が少なくなってしまいます。自分でも「またか…」とため息です。おへそも曲がります。力があるように見えるけど、できそうでできなくて、いつもどこかで叱咤激励されている子は“OK”の場がなかなか見つかりません。本人が自分自身に不満を持ってしまうこともあります。

それでも私たちは OK を出し続けます。「いいぞ、いい顔してる」「～が良かった」「また明日ね」と。これは“甘やかし”ではありません。“認められる”経験です。今の自分が認められてこそ次がんばれる。自分で一歩踏み出そうとするパワーの源です。

きっと、ずっと先まで忘れない“お守り”だと思います。　（Ｈ３０．７）Ｋ